

廃材の再利用（民家再生）

建築学科 龍堀歩夢 半藤慎



テーマ設定の理由

自分たちは、建築の勉強をしていて将来建物を建てたりすることもあると思ったため。SDGsの目標に「つくる責任つかう責任」がある。現状を知り、その目標達成のためにどうしたらよいか知りたかったためこのテーマを選びました。

定義

▶ 廃材とは

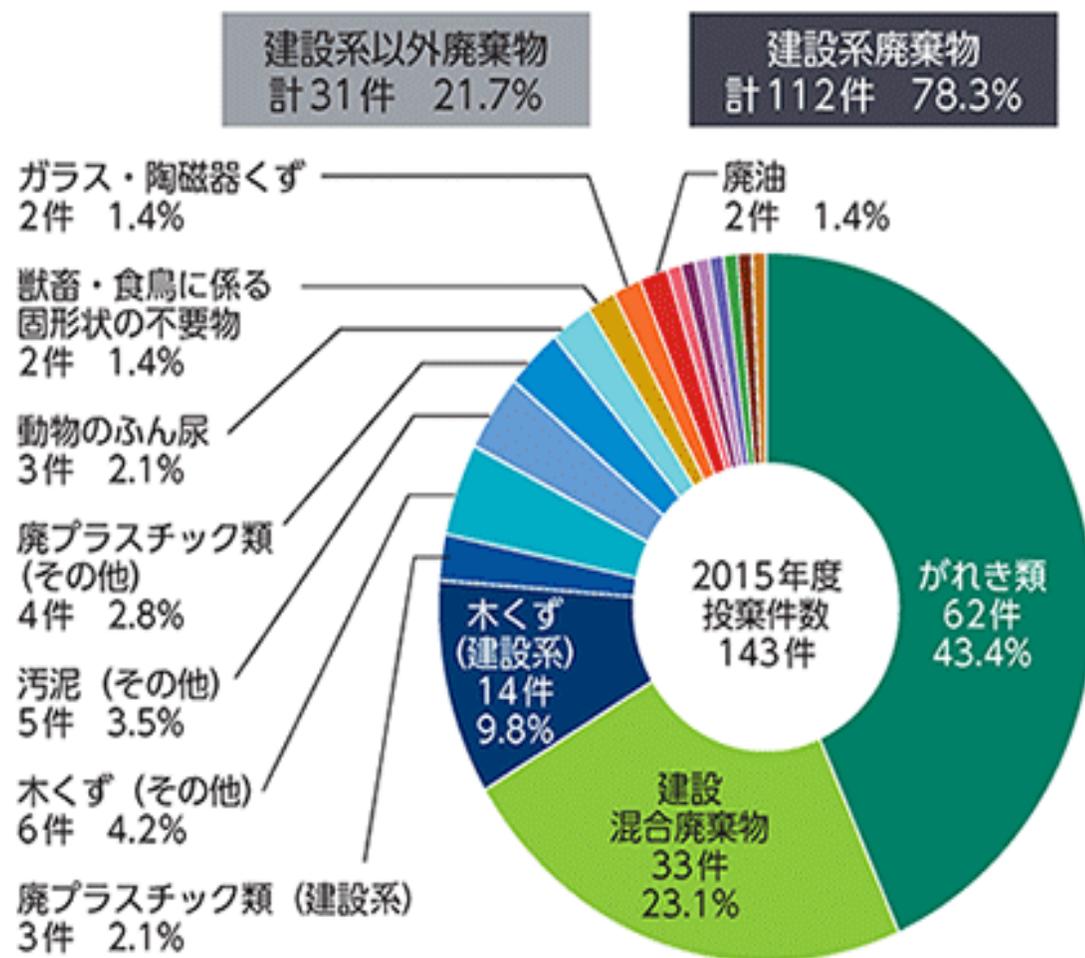
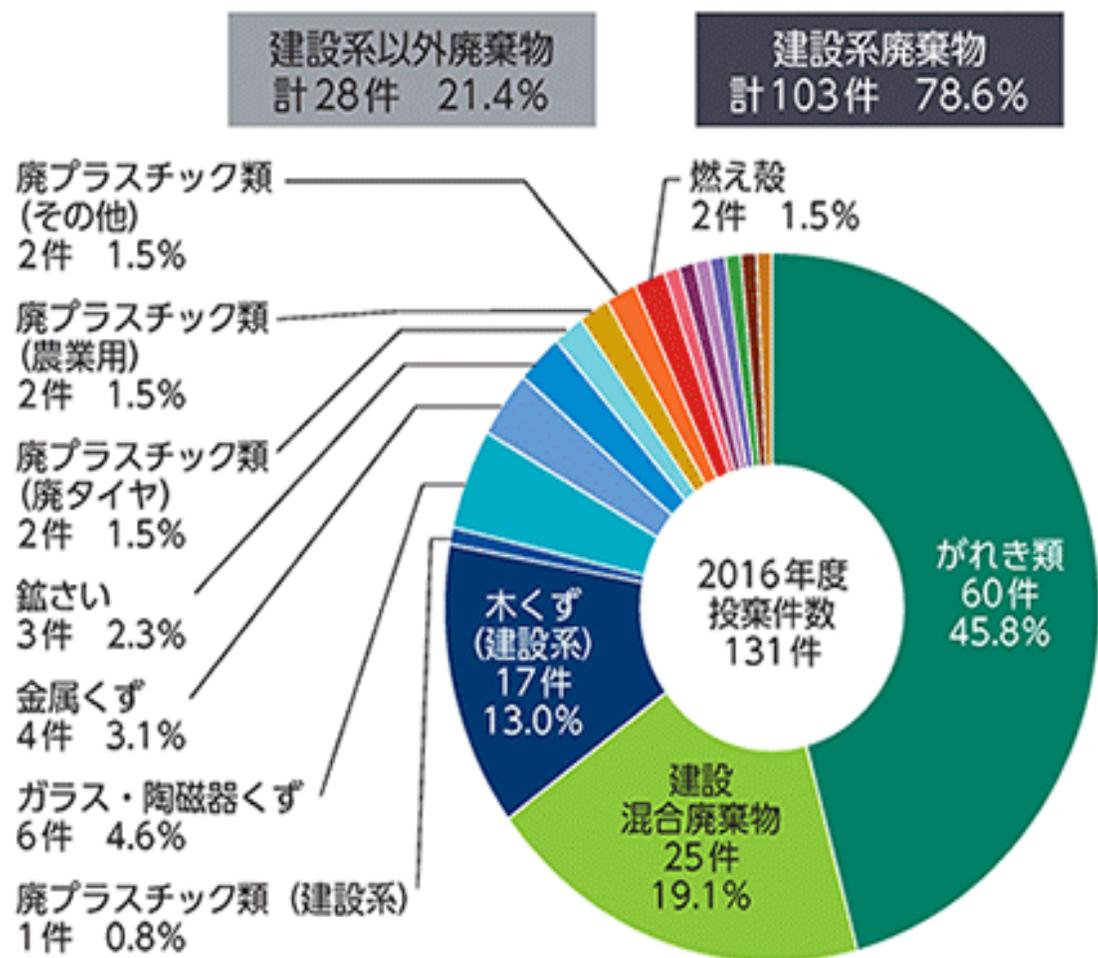
不要のものとして廃棄される材木材料のことで産業廃棄物。解体工事によって出たコンクリートの破片、レンガの破片その他各種の廃材の混合物を含むもの。土地構成のための土砂などは除く。

現状

古民家の現状

古材の再利用には、古民家が建っているその場所で古材を用いて建て直す(現地再生)や古材を別の場所に運搬して再生する(移築再生)の形がある。住宅のリフォームや新築あるいは自ら経営する店舗に古材を取り入れるといった一般ユーザーによる再利用のケースも増えている。廃棄物の現状建築物の廃材は焼却、埋め立て処分されている。

図3-1-24 不法投棄された産業廃棄物の種類（2016年度）



注：参考として2015年度の実績も掲載している。

資料：環境省

問題点

防腐処理木材や接着剤などを利用した木材の扱いをどうするかが重要な問題です。色の薄いものや細かくなつたものの分別は困難である。そのため解体工事の段階できちんと分別できるようにする対策が必要です。

民家再生の問題点については現在日本には空き家が多い。その空き家を活用することなく放置していることが多くそのような家を民家再生し、再活用するなど民家再生の良さを知らない人が多い。

今後の課題

廃材を取り扱っている自社製品の品質検査を行っている業者もいる。しかし、防腐剤、接着剤に関する知識が少ない。廃木材製品品質基準が明確ではないこと、品質検査の費用が高額なことなど問題が多い。そのため、安定した品質の再資源化製品を提供していくために早急な検討や情報共有が必要。

SDGs実現に向けて～10代からの提言～

企業は、ごみ分別を徹底して、使える資源を増やす。その限りある資源を大切に使うことを徹底して行ってほしいです。

考察 感想

古民家再生などの言葉を知っている人はいても、その具体的な内容を知っている人が少ないことが分かった。この状況を受けて自分たちも協力できる社会にしていきたいと思った。